

「オンリーワン徳島行動計画（第二幕）」の平成 20 年度の進捗状況について

はじめに

「オンリーワン徳島行動計画（第二幕）」は、徳島県の進むべき方向と目標を示し、重点的に取り組むべき方策を明らかにした、平成 19 年度から平成 22 年度までの 4 年間の県政推進の指針となるものです。

県では、計画の基本理念である「オンリーワン徳島」の実現に向けて、7 つの基本目標とこれを達成するために計画に盛り込んだ各種の施策・事業の着実な推進に全力で取り組んでいるところです。

この計画の着実な推進には、県民の皆様にも主体的な参画をいただき、「県民・事業者・行政」が一体となって連携・協働して取り組むことが不可欠です。

そのためには、計画の適切な進行管理を行い、その内容を県民の皆様にも明らかにしていくことが求められています。

今回、「オンリーワン徳島行動計画（第二幕）」の平成 20 年度における進捗状況について、「施策・事業の進捗状況」、「目標水準・数値目標の達成状況」をとりまとめました。

施策・事業の進捗状況について

「オンリーワン徳島行動計画（第二幕）」の推進にあたっては、大変厳しい財政状況のもと、「限られた行財政資源」を可能な限り効率的に活用し、より一層効果が上がるよう創意工夫を凝らしながら、本県の喫緊の課題である「医療・福祉」や「中小企業振興などの経済飛躍」、「県内における都市部と中山間地域の格差是正」をはじめとした多くの課題解決のために、計画に盛り込んだ施策・事業を県を挙げて、スピード感を持って、取り組んでいるところです。

計画の 7 つの基本目標別に平成 20 年度の主な施策・事業の進捗状況をまとめると次のとおりです。

なお、「平成 21 年度に向けた改善見直し」の際に、新たに盛り込んだ主要事業のうち、平成 20 年度から取り組む事項についても、あわせてまとめております。

1 「オープンとくしま」の実現

- 1 県民からの問い合わせ等を一元的に受け付けワンストップ型の対応を行う「県庁コールセンター」について、平成21年度内の設置に向けて検討しました。
- 2 県職員の職務執行の公正さを確保するため、新たに「監察局」を設置(H20.12)し、組織の隅々にまで倫理意識を浸透させるとともに、内部牽制機能を強化しました。
- 3 財務事務及び事業の適正な執行の確保を図るため、外部の専門知識を有する監査委員を4名から5名に1名増員(H20.4)し、監査機能の充実強化を図りました。
- 4 とくしまパートナーシップを推進するため、とくしま県民活動プラザにおいて各種支援事業を実施するとともに、南部に「サテライト・オフィス」を設置しました。
- 5 地方分権改革の推進や関西における広域行政の展開等を目的として、「関西広域機構(KU)」において「関西広域連合(仮称)」の設立準備が進められました。
- 6 新たな行政課題にスピード感を持って対応するため、東部圏域の組織再編(H20.4)を行い、「出先機関の再編整備計画」に基づく「出先機関の再編整備」が完了しました。
- 7 「財政構造改革基本方針」に基づき、平成21年度当初予算編成における財政調整的基金の取崩し額を、所期の目標値である73億円に抑制するとともに、新公会計制度による新たなバランスシートなどの財務諸表を公表しました。

2 「経済飛躍とくしま」の実現

- 1 本県の農林水産業の持続的な発展や農山漁村の活性化に資するため、「いのち」と「くらし」を支える「徳島県食料・農林水産業・農山漁村基本条例」を制定(H20.12・施行H21.4)しました。
- 2 「LEDバレイ推進ファンド」の拡充により、総額125億円の「とくしま経済飛躍ファンド」を創設し、地域資源を活用した「徳島ならではの」の新製品開発などの先進的な取り組みや農商工連携による事業創出などを支援しました。
- 3 本県における科学技術施策の推進に向け、将来像や振興策を明らかにするため、「徳島県科学技術振興計画」を策定(H20.12)しました。
- 4 中小企業等の経営活性化・安定化等のため、国際金融危機にかかる緊急対策枠の創設、原油・原材料価格高騰緊急対策資金の融資対象等拡大、セーフティネット資金の融資枠の拡大等、年末の資金需用のための短期資金の融資金額の引き上げなど、融資制度の充実・強化を図りました。

- 5 「建設業新分野進出支援資金」から「地域産業新事業展開支援資金」として対象及び利用条件を拡大(H20.4)するとともに、建設産業の再生支援に関する情報を集めたホームページ「とくしま建設業支援情報板」を開設(H20.6)しました。
- 6 「LEDバレイ構想」を推進するため、LEDを利用した光の名所を光の八十八ヶ所として認定し、「期間限定による光の八十八ヶ所めぐり(LED冬のイルミネーション)」として、県内46スポットをホームページで紹介するなど、「LED王国・徳島」のブランド化を促進しました。
- 7 県の認定を受けた地域密着型の創業や経営革新について、事業の成果を評価し顕彰する県民参加型の「あったかコンペ平成藍大市」を開催し、創業等への取り組み意欲を高め、その計画達成を支援しました。

【以下 平成21年度版】

- 8 雇用創出効果の高い情報通信関連事業所の立地促進を図るため、「情報通信関連事業立地促進補助金」の交付対象に、「事務処理センター事業」「デジタルコンテンツ事業」を追加し、各1社ずつ奨励指定を行いました。
- 9 「新鮮とくしまブランド戦略」の推進体制等を強化するため、「とくしまブランド飛躍戦略会議」を開催し、戦略の検証を行うとともに、京阪神、中京、関東において、本県農林水産物を積極的に取り扱う「とくしまブランド協力店」21店舗を登録し、全国の消費地に直接出向いてPRする「新鮮 なっ!とくしま」号の活動も、地球2週分にあたる8万kmが目前となりました。
- 10 「林業飛躍プロジェクト」で間伐材の搬出を効率的に行う作業道整備について、新たな定額補助を導入し、地域の建設事業者との連携を図り、森林組合等林業事業体の生産体制の強化を図りました。
- 11 「ふるさと雇用再生特別基金」「緊急雇用創出事業臨時特例基金」を活用するなど、新たな雇用の場を創出するとともに、県立テクノスクール(養成コース)の年齢制限を引き上げるなど、就職へのスキルアップ支援等の強化を行いました。
- 12 県出身者が「ふるさと回帰」をするための情報提供等を行う「とくしまジョブステーション」の設置に向けて準備を行うとともに、農林水産就業相談窓口の設置やOJT研修の実施、認定帰農者支援プログラムなど、人材育成のための体制を整備しました。

3 「環境首都とくしま」の実現

- 1 「みなみから届ける環づくり会議」において、企業等との連携による交通渋滞社会実験、地域住民や事業者等と連携した河川等の一斉水質調査及び水質マップの作成・配布、NPO法人や研究機関と連携した植物や磯の生物調査など、県南地域に密着した協働型の環境活動を推進しました。
- 2 県民を総ぐるみで本県の自然的、社会的特色を生かした地球温暖化対策を推進するため、「徳島県地球温暖化対策推進条例」を制定(H20.10・施行 H21.4)しました。
- 3 低炭素社会の実現を目指し、産学民官の協働組織である「とくしま環境県民会議」主催により、「徳島市中心部や今切工業団地（川内町）における通勤時交通社会実験」を実施し、自動車通勤から、公共交通機関や自転車へのシフトや水上バス・シャトルバスの試験運行などを行いました。
- 4 きれいな水環境づくりを推進するため、旧吉野川流域地区における流域下水道事業を推進し、旧吉野川流域下水道事業(第1期計画)の一部供用を開始しました。
- 5 化学肥料や化学農薬の使用量を低減しつつ、農産物の収穫量や品質を維持する「持続性の高い農業生産方式」の導入に取り組むエコファーマーの育成を支援するとともに、農業生産活動に由来する環境への負荷の低減を図るため「徳島県有機農業推進計画」を策定(H21.3)しました。
- 6 「リサイクル製品」「3Rモデル事業所」「エコショップ」「エコイベント」を県が認定・普及することにより、廃棄物の発生抑制や有効利用を促進するとともに、リサイクル製品の需要拡大によるリサイクル産業の振興を図りました。
- 7 民間の資金、資材、人材の協力を基に、県南地域の自然林から採集した広葉樹の種子を育苗・植樹して自然再生を目指す「どんぐりプロジェクト」を推進しました。
- 8 「健全な森林」「美しい森林」をつくるため、間伐対策、複層林への誘導、計画的な路網整備を推進するとともに、森林を取得し、水源かん養など公益的機能を重視した「流域モデル林」を造成する「とくしま公有林化プロジェクト」に取り組み、適切な森林の管理・保全を推進しました。

4 「安全・安心とくしま」の実現

- 1 危機管理対処指針に基づいた「危機管理マニュアル基本シート」の見直しを行うとともに、高病原性鳥インフルエンザの発生に備えた全庁的な体制の確認、新型インフルエンザ対策行動計画の改訂、大規模テロを想定した国との国民保護共同訓練（図上訓練）の実施など、危機管理体制の整備を推進しました。

- 2 迅速な県職員の応援派遣や現地の被災状況に応じた的確な応急対策活動を支援するため、県職員で構成する「徳島県職員災害応援隊」を結成しました。また、県職員やOBから有志を募り、居住する地域での地域防災の強化について地域に働きかける「南海地震対策推進パートナー」を育成しました。
- 3 地すべり防止区域等が多く、孤立化が発生する可能性の高い西部圏域で、孤立化対策研修会、ワークショップなどを開催し、その成果を基にした「孤立化対策の手引き書」の作成・普及啓発により地域防災力の強化を図りました。
- 4 耐震化の最新技術成果を本県にも導入するため、「耐震診断・改修マニュアル」を改訂するとともに、耐震診断員・耐震改修アドバイザー及び耐震改修施工者等を養成するため、講習会を開催しました。
- 5 吉野川及び那賀川水系において、無堤地区の解消に向けた堤防整備や、内水被害軽減のための排水機場の整備が進められるとともに、国直轄事業として長安口ダムの堆積土砂の除去等が実施されました。
- 6 産地偽装など不適正表示の未然防止と県産ブランドの維持・育成のため、消費者への情報提供の徹底や監視システムの強化、検査体制の充実などを総合的に推進しました。
- 7 消防防災ヘリコプターの救急活動において、救急現場から速やかに救命救急医療を実施できる体制を整備するため、「ドクターヘリ機能」による運用を開始(H20.8)するとともに、和歌山県ドクターヘリとの相互応援体制を整備(H21.3)しました。
- 8 休日夜間での小児の急な発熱やけが等の対処に悩む保護者から相談を受け付け、適切な助言を行う小児救急電話相談事業「徳島こども救急電話相談」の相談日を、「土日祝日・年末年始」から「毎日」に拡大しました。
- 9 身近な地域で本人の意向を尊重した「がん治療」が受けられる環境づくりを推進するとともに、県医師会に委託して作成した「糖尿病地域連携クリティカルパス」のモデル運用を行い、地域医療連携システムの構築を推進するなど、県を挙げて糖尿病克服対策に取り組みました。
- 10 県民に身近な犯罪を防止するため、警察本部に「振り込め詐欺総合対策室」を設置(H20.7)し、行政、金融機関、コンビニエンスストアなど関係団体等と協働して、振り込め詐欺撲滅運動を推進しました。

5 「まなびや、とくしま」の実現

- 1 徳島県教育振興審議会からの答申を踏まえ、本県教育の指針となる「徳島県教育振興計画」を策定(H20.10)しました。

- 2 「中高一貫教育研究会議」を設置し、平成22年度から富岡東高校に導入する併設型中高一貫教育の概要について検討するなど、中高一貫教育の全県展開に向けた準備を進めました。
- 3 高度情報化などの様々な社会の変化や科学技術の高度化・複合化に対応できる人材を育成することを目指す新しいタイプの高校として、「徳島科学技術高校」の校舎改築・備品整備などの開校準備を進めました。
- 4 学校における学習活動や部活動などを地域ぐるみで支援する「学校支援地域本部」の地域コーディネーターが中心となって、地域住民から学習活動や環境整備等のサポート、登下校時の安全パトロール等を行う「学校支援ボランティア」を募集し、地域ぐるみで学校を応援する体制を整備しました。
- 5 災害に強い安全な学校施設の整備、教育ニーズに対応した良好な教育環境を提供するため、県立学校施設の耐震化を計画的に推進しました。
- 6 「徳島県立総合大学校(まなびーあ徳島)」を開校(H20.6)し、各種講座のワンストップサービスでの情報提供、人材登録制度による講師派遣等を行うとともに、交流スペース「まなびーあるーむ」や本格的なホームページを整備(H20.10)しました。
- 7 青少年のニーズやライフスタイルの多様化に対応するため、PFI事業契約に基づき、徳島県青少年センターの再編整備・耐震改修に向けた基本設計・実施設計を実施しました。
- 8 学校における食育推進の中核的役割を担う栄養教諭の全市町村への配置が完了し、栄養教諭を食育推進コーディネーターとした食育推進体制が、県内全域に整備されました。また、コンビニエンスストア等と連携した実践的な食育推進に取り組みました。

6 「“みんなが、とくしま」の実現

- 1 配偶者からの暴力防止や被害者の保護を図るため、「配偶者からの暴力に関する相談機関等連絡会議」を開催し、相談機関相互の連携・情報交換等を行うとともに、「配偶者暴力防止及び被害者保護に関する徳島県基本計画」を一部改定(H21.3)しました。
- 2 豊かな長寿社会づくりのための高齢者施策を推進するため、新しい「徳島県高齢者保健福祉計画・介護保険事業支援計画(とくしま長寿プラン)」を策定(H21.3)しました。

- 3 障害者施策を総合的かつ計画的に推進するとともに、障害者の地域での自立を支援するため、「徳島県障害福祉計画」及び「新徳島県障害者施策長期計画」を改定(H21.3)しました。
- 4 子育て家庭が親子でともに過ごす時間を増やし、子育てや生活のバランスを見直すための取組である「Go!Go!くっつき隊応援事業」を実施するとともに、四国4県の子育て家庭への優待サービスの相互利用を開始(H20.7)し、「しこく子育て家庭応援キャンペーン」を実施(H20.8～H21.1)しました。
- 5 高齢者自身が生きがいを持って豊かな高齢期を創造できるよう能力の再開発を援助するとともに、地域福祉を推進するリーダーの養成を行い、「シルバー大学院」ICT講座の南部地域校の入学者を10名増員しました。
- 6 障害者の職業的自立を支援するため、障害者の職業訓練、職場適応訓練等を行うとともに、障害者雇用を促進するための具体的な施策を示した「障害者雇用促進行動計画」を策定(H20.8)しました。
- 7 地方税法改正(H20.4)によりスタートした「ふるさと納税制度」を契機に「ふるさと徳島」の魅力を高め全国に発信する事業を実施するため、「ふるさと“OURとくしま”応援事業」による寄附募集を開始しました。

7 「“にぎわい、とくしま”の実現

- 1 本四道路の通行料金引き下げに向けた要望が実り、休日割引が導入(H20.9)されるとともに、夜間割引においても、対象車種、時間帯、割引率が拡大されました。さらに、国においては、追加経済対策として画期的な料金割引が実施(H21.3)されました。
- 2 「徳島空港新時代」の広域交通ネットワークの形成に向け、徳島飛行場の滑走路拡張(2,500m化)を進め、滑走路等の舗装工事に着手しました。
- 3 西部圏域の豊かな地域資源を活用し、観光地の広域連携による内外観光客の来訪滞在を促進するため、西部圏域の2市2町をエリアとして官民一体となった「にし阿波観光圏協議会」が設立(H20.8)され、国土交通大臣から観光圏に認定(H20.10)されました。
- 4 アンテナショップを活用して、本県の魅力と知名度アップを図りました。また、都道府県では初めて、コンビニエンスストア内に「徳島アンテナショップ(ローソン虎ノ門巴町店内)」をオープン(H21.3)し、県産品のPRや販路拡大、情報発信を行いました。

- 5 ドイツ・ニーダーザクセン州との交流として、世界最大規模の産業技術総合見本市「ハノーバー・メッセ」に徳島ブースを出展(H20.4)し、県内企業の海外販路開拓を支援するとともに、ヴルフ首相を団長とする公式訪問団を受け入れました(H21.3)。また、徳島県ブラジル公式訪問団をサンパウロ州に派遣(H20.5)し、阿波踊り交流・技術指導を行いました。
- 6 国内最大級の地域情報化の祭典「地域ICT未来フェスタ2008 in とくしま」を開催(H20.11)し、インターネット参加を含め県内外から延べ10万人が参加しました。特に、サテライト会場と光ファイバー網等を活用したイベントの実施により、過疎化が進む中山間地域の可能性を全国に発信しました。
- 7 県税など公金納付の利便性向上のため、「次世代収納基盤システム」を導入することとし、平成21年度からの自動車税コンビニ収納の準備を行いました。
- 8 国民文化祭の成果を踏まえ、公募提案型事業や市町村との連携事業を取り入れた新たなスタイルの「県民文化祭」を開催するとともに、「文化立県とくしま推進基金」を創設し、ベートーベン第九日本初演の地「とくしま」の発信など、徳島ならではの文化資源の活用を推進しました。
- 9 近畿2府8県の高校生が芸術文化活動の成果を発表し交流する文化の祭典である「第28回近畿高等学校総合文化祭」を本県で開催(H20.11)し、県内外の6千人の高校生が芸術文化の相互交流を繰り広げ、大きな成果を挙げました。
- 10 県民のスポーツ振興や青少年の健全育成を図るとともに、本県の魅力や県民挙げての「おもてなしの心」を全国に情報発信できる「とくしまマラソン」を開催(H20.4)し、4,045人が出走、3,814人が完走しました。
- 11 県南部圏域にある自然環境や人的資源を活用したアウトドアスポーツを振興するため、市町や民間が主催する8つのアウトドアスポーツイベントを、一連のスポーツ集合体として位置付け、効果的な情報発信を行うとともに、アドベンチャーレース「四国エクストリームチャレンジ in 南阿波2008」を開催(H20.11)しました。

【以下 平成21年度版】

- 12 高速道路新料金スタート前に全国に先駆けてプロジェクトチームを設置し、「観光入込客数」と「大鳴門橋通行台数」の「倍増」を挑戦目標に掲げた「高速道路新料金活用戦略」を取りまとめました。
- 13 兵庫県との県政広報紙の紙面交換による情報発信(H21.2)、淡路SA(下り)におけるPRキャンペーン(H21.3)、県内観光地や農林水産物等を県内外にアピールする「産直市マップ」の作成(H21.3)など、具体的対策を実施しました。

目標水準・数値目標の達成状況

「オンリーワン徳島行動計画（第二幕）」では、7つの基本目標を具体化するための49の各重点施策ごとに、「目標水準」を定めるとともに、これを構成する主要事業についても、個々に「数値目標」を設定しております。

平成20年度版計画においては、合計541の「目標水準」「数値目標」を掲げており、その達成状況についてとりまとめました。

実績値の出た指標の達成状況の概要は次のとおりです。

（目標水準・数値目標の達成状況の概要）

平成20年度までを目標年次としていた「目標水準」「数値目標」の指標の約9割について、目標値を達成しました。

- 1 平成19・20年度を目標年次としていた99指標のうち92指標（約93%）が、計画に掲げた目標を「達成」しました。

< 「達成」の具体例 >

30	東部圏域の組織再編	再編完了(H20)	(目標：再編完了(H20))
54	「徳島県農林水産基本条例」の制定	制定(H20)	(目標：制定(H20))
138	「徳島県地球温暖化対策推進条例」の制定	制定(H20)	(目標：制定(H20))
293	消防防災ヘリに「ドクターヘリ機能」を導入	導入(H20)	(目標：導入(H20))
352	徳島県立総合大学校の創設	創設(H20)	(目標：創設(H20))
393	新とくしま長寿プランの策定	策定(H20)	(目標：策定(H20))
499	地域ICT未来フェスタの参加人数	118,900人(H20)	(目標：100,000人(H20))

- 2 平成19・20年度を目標年次としていた99指標のうち7指標（約7%）については、計画に掲げた目標を達成できませんでしたが、目標年次が平成19年度の指標で未達成であった6指標のうち3指標については、平成20年度には、目標を達成することができました。

< 「H19未達成だがH20に達成したもの」 >

223	「消防広域化推進計画」	未策定(H17)	策定(H20)	(目標：策定(H19))
224	水防情報システムの拡充	未着手(H17)	完了(H20)	(目標：システム全面更新(H19))
536	「スポーツ表彰・褒賞制度」の創設	- (H17)	創設(H20)	(目標：創設(H19))

平成20年度時点で未達成のものは4指標であり、このうち3指標については、できるだけ計画期間内の早い時期に目標を達成できるよう全力で取り組むこととしています。

< 「H20に達成できなかったもの」 >

58	漁業協同組合数(沿海)	35組合(H17)	35組合(H20)	(目標：1組合(H19))
260	浅川港浅川地区耐震物揚場の進捗率	42%(H17)	83%(H20)	(目標：100%(H20))
340	高校再編の計画策定	0地域(H17)	5地域(H20)	(目標：7地域(H19))
498	第20回全国おきなごシンポジウムinとくしま(参加人数)	- (H17)	約400人(H19)	(目標：約700人(H19))

- 3 平成21年度以降を目標年次としている指標については、それぞれの目標達成に向けて事業に取り組んでいるところです。

計画の改善見直し

この計画の進行管理にあたっては、計画をより実効性のあるものとするため、「**進化する行動計画**」として、社会経済情勢等の変化や新たな県民ニーズに即応して、毎年度必要な改善見直しを行っています。

平成 21 年度に向けた改善見直し

計画の 7 つの基本目標の達成に向け、重点的に展開する 49 の重点施策に盛り込まれた施策・事業（主要事業）について、計画策定以降の社会経済情勢等の変化や新たな県民ニーズに即応するため、特に重要なものについて具体化を図るなどの追加・修正等を行いました。

これにより、主要事業については、42 事業を追加するとともに、40 事業について修正を行いました。また、数値目標についても、54 指標を追加するとともに、50 指標の修正を行いました。

< 「主要事業を追加したもの」の具体例 >

「関西広域連合（仮称）」設立準備を推進
「緊急経済雇用対策」（経済対策、雇用対策、回帰対策）の推進
企業等によるカーボン・オフセットに基づく森林整備を推進
消費者庁創設に対応する「消費者基本条例」の改正
体力向上プランの策定など子どもの体力向上に向けた取り組み
「パーキングパーミット」の交付を開始
「高速道路新料金活用戦略」の推進

< 「数値目標を上方修正したもの」の具体例 >

県庁のインターシップ 大学生受入数(黠)	127人(H17)	目標 360 450人(H22)	(H20: 303人)
緑の研修生の定着数	- (H17)	目標 30 50人(H22)	(H20: 23人)
エコファーマー認定数(累計)	1,112人(H17)	目標 1,400 1,600人(H22)	(H20: 1,459人)
抗インフルエンザウイルス薬の備蓄	- (H17)	目標 68,000 126,000人分(H22)	(H20: 68,000人分)
不妊治療費助成件数(累計)	243件(H17)	目標 850 1,500件(H22)	(H20: 1,089件)
ルアとくしま 100 講座参加者数(黠)	- (H17)	目標: 10,000 20,000人(H22)	(H20: 14,826人)
観光入り込み客数	1,245万人(H17)	目標 1,500 2,150万人(H22)	(H19: 1,357万人)

平成 22 年度に向けた改善見直し

計画の改善見直しにあたっては、県民の皆様と地域別・年代別で意見交換する場である「しゃべり場とくしま」や「パブリックコメント」等における県民意見をできる限り反映するとともに、徳島県総合計画審議会や県議会でのご議論をいただきながら、改善見直しを行うこととしています。

平成 22 年度に向けた改善見直しにあっても、平成 20 年度の計画の進捗状況の点検・評価結果について、徳島県総合計画審議会などにおいてご議論をいただきながら、社会経済情勢の変化や新たな県民ニーズに即応して、事業の「必要性」や「目的妥当性」等の観点から見直しを行っていくこととしています。